

肉用牛の改良増殖目標に係る現状と課題

現 状

【能力に関する改良目標】

(産肉能力)

- 産肉能力については一定の向上が図られている
- 各品種において肥育期間の短縮が図られていない

(飼料利用性)

- 日齢枝肉重量の育種価は、黒毛和種・褐毛和種・日本短角種いずれも向上している

(繁殖性)

- 近年、初産月齢、分娩間隔については横ばい、子牛生産指数は低下傾向

【家畜能力向上に資する取組】

(SNP情報の活用)

- 産肉能力・繁殖性等の向上、遺伝的多様性の確保を図るため、SNP情報の活用を開始

(改良手法)

- 近交係数が増加傾向で推移
- 種雄牛の増体性に着目した改良を実施するとともに、飼料利用性に係る指標として余剰飼料摂取量も導入

(おいしさの指標化)

- 肉のおいしさ評価が導入され、一部県においてオレイン酸を一定割合以上含む牛肉をブランド化。家畜改良センターでも、消費者を対象とした官能評価を実施

(遺伝的能力評価)

- 兵庫県、宮崎県、鹿児島県は各県独自で、広域後代検定実施県(19道県)は共同で、家畜改良事業団は単独で、それぞれ遺伝的能力評価を実施

課 題

【能力に関する改良目標】

(産肉能力)

- 肥育期間の短縮については、肉質の低下等による販売収入減少への懸念が払拭されていない状況

(飼料利用性)

- 日齢枝肉重量の育種価目標は、現状のトレンドでは達成困難

(繁殖性)

- 繁殖形質は遺伝率が低く、評価指標の設定等が困難
- 繁殖性の向上に向けた飼養管理の改善

【家畜能力向上に資する取組】

(SNP情報の活用)

- 正確度を高めるための調査や分析評価手法の精査

(改良手法)

- 近交係数に配慮した改良のあり方
- 余剰飼料摂取量については、候補種雄牛選抜の際の参考としての活用にとどまっている状況

(おいしさの指標化)

- 脂肪の質(オレイン酸)に加えて、筋肉のおいしさに関する新たな評価指標の確立

(遺伝的能力評価)

- 遺伝的能力評価の土俵が異なっているため、繁殖農家等における交配目的に合った種雄牛の選択等を阻害している可能性